

2040年の 社会 のすがた



85歳以上の
高齢者の
さらなる増加



少子化による
支え手の減少



DXの進展
による
技術革新



気候変動による
健康や
栄養への影響

2040年の 医療・看護 のすがた



病院は
高機能・集中的な
治療の場へと集約

回復に伴う
治療や療養は、
自宅・施設など
「生活の場」へと
移行



幼少期からの健康教育、
病気の予防や
健康づくりへの
意識が向上



医療 DXにより、
生活の場での
オンライン診療、
IoTによる
遠隔モニタリングが
一般的に



「医療」と「生活の質」をみる双方の視点をもつ看護職。
すべての人々がその人らしく生涯を過ごすことのできる社会の実現に向け、
次の3つを大切に、新たな時代に挑戦します。

2040年に向けて看護がめざすもの

その人らしさを尊重する 生涯を通じた支援



社会の変化、医療の進歩に対応しながら、生まれる前から
人生の最終段階まで、人生のどの場面においても
人々の身近なところで一人ひとりに最適な看護を提供します。

専門職としての 自律した判断と実践



病院・施設・自宅、どこであっても安心して療養ができるよう、
看護職が専門的な知識を生かして的確に判断し、
その人にとっての最善の支援を行います。

キーパーソンとしての 多職種との協働



それぞれの職種の強みを十分に発揮しあえるよう、看護職が
架け橋となって、他の職種とともに人々の健康をまもります。

※看護職とは、保健師・助産師・看護師・准看護師のこと

これからも人々のいのち・暮らし・尊厳をまもり支えつづけるには、
看護職がいきいきと働ける環境整備、多様で柔軟な働き方への転換が大切です。

そのために、日本看護協会は**看護職自身のウェルビーイング**にも力を注ぎます！